

中般若北浦遺跡

発掘通信 1号

R5年 11月8日

●調査の経緯

愛知県埋蔵文化財センターでは、国土交通省（木曾川上流河川事務所）による木曾川江南防災拠点整備事業に伴い、令和5年10月から翌年1月まで江南市中般若北浦遺跡の発掘調査を行ないます。最近遺跡地図に登録されたところ^{なかはんにやきたうらいせき}です。時代は、中世から近世となっており山茶碗^{はじき}、土師器、古瀬戸などの欠片が見つかっています。今年度の面積は、2000㎡あり調査区は、南北に分けA区とB区とし現在はA区を発掘しています。この発掘通信では、調査の結果を毎月お伝えしたいと思います。



重機を使い表土掘削



上図 遺跡範囲と発掘調査の位置

●遺跡の概要

中般若北浦遺跡は、江南市の北東の端に位置しています。木曾川の左岸に位置しており、愛岐大橋の東側にあります。また、御囲堤の北側に位置しています。御囲堤は、慶長14年に築堤が開始された堤防です。上地図の黄色い道が御囲堤です。周辺には郷前遺跡や宮山遺跡がありこれらは中世の遺物が散布している遺跡です。

今年度が初めての本格的な調査で、試掘結果から溝や遺構が確認されています。先日遺構検出の撮影が終わり遺構掘削に入っています。

遺物は、山茶碗、古瀬戸、土師器皿、などが見つかっています。山茶碗は釉がかからない陶器の碗で東濃型、尾張型が見つかっています。古銭も複数見つかっており、そのうちの1点が永楽通宝です。他にも洪武通宝も見つかりました。

左写真：遺構検出のようす「じょれん」を使いながら遺構を探しています。



写真の上に木曽川が流れており川の反対岸は岐阜県です。写真右下が発掘調査しているところで、遺構検出状況です。西側に多く遺構があります。遺構が少ないこの部分は浅い凹地になっています。駐車スペースになっているところも次年度以降の調査範囲となっています。



表土掘削時に室町時代の古瀬戸の盤類底部が逆さの状態で見つかりました。



室町時代の永楽通宝と書かれている古銭。遺構検出の時に見つかりました。



礫層のすぐ上で出土した室町時代の尾張型の山茶碗



試掘時に確認された室町時代の鉢で逆さの状態で見つかりました。